



季刊わたぼうし

NO.98
'14春

七尾市コミュニティバス
「ぐるっと7・西廻りコース」で巡る七尾の旅 2014 I

今回の目次

※七尾市コミュニーるっと7・

西廻りコース」で巡る七尾の旅・2014 I

- ・プロローグ(前置き) 2
- ・小丸山大橋を渡り小丸山公園へ 3
- ・小丸山大橋のバリアフリー状況 4
- ・小丸山交差点、小丸山公園前の
バリアフリー状況 5
- ・小丸山交差点の
横断歩道を横断しましょう。 6
- ・小丸山公園前を散策 7
- ・小丸山公園内の多目的トイレ 8

※「HSK季刊わたぼうし」の30年の歩み I 9

※能登食祭市場が改装されました。 12

※編集後記 12

福寿草

君にあえると

ホツとする

千寿子



この機関紙は障害のある人、ない人が自由に考えを出し合い、主義・主張を越えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

七尾市コミュニティバス

「ぐるっと7・西廻りコース」で巡る七尾の旅 2014 I

○七尾市コミュニティバス「ぐるっと7・西廻りコース」を使い、七尾の名所散策・人との出会いを求めて。過去3年間で「ぐるっと7・西廻りコース」は青山彩光苑～恵寿総合病院を巡りました。今年は小丸山のバリアフリー状況を見て歩きます。

プロローグ(前置き)

七尾市コミュニティバス「ぐるっと7・西廻りコース」は「2001年青山彩光苑障害者週間」の企画で「七尾市で車いすで乗車できるバス『まりん号』を彩光苑へ」を合い言葉に運動、署名活動を行い、夢を実現させたものです。

この署名活動は、車いす生活者だけではなく、高階・赤浦地区の住民や、小丸山小学校に通学する児童の足の確保のためにも皆が力を合わせ行いました。青山彩光苑の利用者・職員・地域

住民・地元選出の市議会議員などが参加し、武元前七尾市長に車いすが乗車できるコミュニティバス運行の陳情をしました。

その運動が実り、2002年11月より七尾駅から恵寿総合病院・公立能登総合病院・青山彩光苑を経由し高階地区を結び、車いす2台が乗車できるコミュニティバスの運行が開始されました。

今後、青山彩光苑～七尾駅の停留所を数年かけてデジカメで撮影し、観光やバリアフリー状況を取材して報告したいと思います。

「ぐるっと7・西廻りコース」路線図(青山彩光苑～七尾駅)

フリー乗降区間
赤浦町 ↔ 松百新町

馬場橋口
直津町
青山彩光苑前
青山町口
池崎中
西池崎
高階保育園前
JA高階店前
西三階中

西コース
直津・高階方面

フローリア前
小丸山台2丁目
小丸山台1丁目
小丸山台3丁目
能登病院

小島橋
桜町
寿町
食祭市場前
捨物町
七尾駅

池崎
盤若野
旭町
東三階
西三階

おばあちゃん、私とコミュニティバス「ぐるっと7」で七尾まで行き、買い物や食事をして来ましようよ。

小丸山大橋を渡り小丸山公園へ

前号ではチャイルドケアハウス小丸山を紹介しました。ケアハウスの子供たち、先生方とお別れし、小丸山大橋のバリアフリーについて確認しながら小丸山公園へ向かいます。



チャイルドケアハウス小丸山の正面



斜めになっている小丸山大橋前の歩道

チャイルドケアハウス小丸山を出ると、小丸山大橋があります。小丸山大橋へ向かう歩道は平坦ではなく、揺るかな斜度になっており、自走の車いすが漕ぎにくいと思います。

小丸山大橋を渡り小丸山公園方面へ向かっています。(電動車いすはスイスイ)



小丸山大橋の中程で休憩中です。電動車いすで中程に来ました。飛び跳ねる魚たちを見ながら、日光浴。チャイルドケアハウス方向から小丸山大橋の中程は、坂になっており、自走の車いすでは腕力が必要です。

(羽咋方向から撮影)



小丸山大橋のバリアフリー状況

前頁では、小丸山大橋の中程で日光浴していましたが、小丸山公園へ向けて進みながら、小丸山大橋のバリアフリー状況を調査した報告をします。



小丸山大橋は七尾市の中心街を流れる御祓川にかかり、国道249号線を羽咋方面から小丸山公園へ行く七尾市小丸山台にあります。

七尾市の中心街に通じる道路なので交通量が多く危険です。(羽咋方向から撮影)

小丸山大橋の中程は防護策があるので転倒の危険はありませんが、小丸山交差点近くは転倒防止柵がなく、転倒の危険があります。

(小丸山公園方向から撮影)



小丸山大橋の中央は段差が高く、小丸山交差点方向へ進むと、段差が低くなっていきます。

電動車いすの操作を誤ると、大事故に繋がります。早急に安全対策を希望します。

小丸山交差点、小丸山公園前のバリアフリー状況

小丸山大橋を渡り、小丸山交差点まで来ました。小丸山大橋の橋架下にはJ R七尾線、のと鉄道の線路があり、和倉温泉駅行きの「サンダーバード」などの特急電車、穴水駅行きの電車が走っています。



小丸山大橋（小丸山公園方向から撮影） のと鉄道、穴水行きの電車（小丸山大橋から撮影）



小丸山交差点（羽咋方面から撮影）

小丸山交差点（J R七尾駅方向から撮影）

七尾市内の中心街に繋がり、交通量が多い交差点です。危険なのでマナーを守って横断しましょう。左は県道1号線和倉方面。右は小丸山公園前の国道249号線、J R七尾駅方向の整備された歩道。



歩道と横断歩道の段差が無くなりました。

下り坂で車いすのスピードが出るので、介助者がいると安心。

小丸山交差点の横断歩道を横断しましょう。

ここでは、小丸山交差点を実際に電動車いすで横断している様子を、順を追って見てみましょう。

和倉方面～J R七尾駅方面へ横断



小丸山交差点(和倉方面の歩道と横断歩道の段差)

車が通らないか、よく左右の確認をして。



2

3

車が来ないか確かめ、横断中。

信号が赤に変わるまでに無事に横断完了。

小丸山大橋～小丸山公園方面へ横断



1

2

歩行者用信号機が赤で信号待ち。

青に変わり横断中。早く渡って。

小丸山公園前を散策

小丸山大橋を渡り小丸山交差点を横断し、小丸山公園前に到着。「小丸山公園は前田利家が金沢に築城する前に七尾で築いた居城、小丸山城跡を公園にしたもの」公園前周辺を散策します。



小丸山公園、小丸山交差点前の入り口

小丸山公園、小丸山交差点前の入り口、スロープ

小丸山公園の春は花見で賑わいます。障害者トイレは2カ所ありますが、砂利道で車いす・老人車の移動が困難です。以前、小丸山公園でバーベキューをしましたが、素早いトンビに肉を狙われ、取って行かれました。園内に「トンビに注意」の立て看板も立っています。



電動車いすで公園へ行こうかなあ？



左は和倉温泉方面へ行きます。



右はJ R七尾駅方面へ行きます。

小丸山公園内の多目的トイレ

小丸山公園内のバリアフリーを見て歩きました。多目的トイレが二カ所ありますが、便座が低いので車いす利用者にとっては、使い勝手が悪いと思います。

新多目的トイレ



新多目的トイレの正面



新多目的トイレの入りロドア



← 手を触れるだけで水が出る洗面台。

便座が低く、車いすでは使用しにくいトイレ →

旧多目的トイレ



左:女性用 右:男性用



女性用車いすトイレ。上の赤ランプは緊急事態連絡用です。



男性用車いすトイレ。車いすマークの下に「どなたでもお使い下さい」と書かれている。

「HSK季刊わたぼうし」の30年の歩み I

「HSK季刊わたぼうし」は2015年に創刊30周年を迎えます。その30年の歩みを辿ってみます。

「HSK季刊わたぼうし」創刊30周年のあゆみ・テーマ表 I 1985(昭和60年)～1990(平成2年)

No	発行日	西暦	テーマ	主なニュース(ニュースはネットで検索)
01	昭和60年1月29日	1985	ついに出る「わたぼうし新聞」	青山彩光苑の開設(重度更生援護)
02	3月10日		テレビニュースの取材から	横綱・北の湖引退。
03	5月10日		ボランティアとは	障害者基礎年金制度の創設。NTT、JTTが民間企業として発足。
04	8月15日		障害者にとって家族とは	日航ジャンボ機墜落事故。
05	11月15日		私の体験	在宅障害者のディ・サービス事業創設
06	昭和61年3月10日	1986	健全者から見た障害者観	特別障害者手当の創設。スペースシャトル打ち上げ後に爆発。
07	9月15日		障害者にとって恋愛・結婚	施設入所者への費用徴収制度の創設。伊豆大島三原山が噴火。
08	昭和62年1月10日	1987	新年金制度について	国連・障害者10年の中間年。朝日新聞社版神支局襲撃事件。
09	9月15日		ともだち	社会福祉士、介護福祉士の制定。竹下内閣発足。
10	昭和63年1月1日	1988	介護とはI	(日拡)盲人ワープロ共同利用制度導入。青函トンネルが開通。
11	4月20日		介護とはII	S63(日拡)ワープロ、緊急通報装置。東京ドームが完成。
12	8月1日		介護とはIII	夏季ソウルオリンピック・パラリンピック。天皇陛下の病状悪化。
13	11月15日		介護とはIV	竹下首相が「ふるさと創生」のため、市町村に一億円の交付税交付
14	平成元年2月25日	1989	生きるとはI	H1 青山彩光苑に療養施設が開設。
15	5月20日		生きるとはII	(日拡)酸素ボンベ運搬車など。昭和天皇の崩御。手塚治虫氏死去。
16	8月20日		私の趣味I	福祉工場定員引き下げ(20人以上)。消費税3%の導入。
17	11月20日		私の趣味II	手話通訳技能認定試験の実施。ベルリンの壁の撤去。
18	平成2年2月20日	1990	私のゆめ	H2(日拡)重度障害者用意志伝達装置。大阪で緑と花の博覧会。
19	6月1日		私の自助具	授産施設の混合利用制度の創設。東西ドイツが統一。
20	9月1日		障害者と自動販売機I	身体障害者福祉法の改正。TBS社員秋山氏がソ連宇宙船に搭乗。

1. 「HSK季刊わたぼうし」の誕生するまで

編集者・桶屋 善一

来年、2015年に「HSK季刊わたぼうし」が創刊30周年を迎えるにあたり、「HSK季刊わたぼうし」の歩みを書いてみようと思いました。

1981年(昭和56年)10月に開催の「羽咋わたぼうしコンサート」が始まりです。

わたぼうしコンサートとは、障害を持つ人たちが書いた詩にメロディをつけて歌うコンサートです。県内では1982年に松任、1983年に七尾

と行なわれました。

1981年と言えば、ゴダイゴの曲「ビューティフルネーム」が毎日、NHKのテレビ・ラジオから流れ、「完全参加と平等」をテーマにした国際障害者年10年のスタートの年でした。

羽咋わたぼうしコンサートは、10月11日(日)に奈良県の「たんぼぼの家」から歌うボランティアを招いて石川県羽咋体育館で開かれました。当日は秋晴れで、秋の空がすがすがしい気持ちのよい天気でした。

コンサートは、NHK金沢のIアナウンサー、実行委員の女性アシスタントによる2人の司会

で、地元の障害者が書いた詩に、地元のボランティアがメロディーをつけて発表する一部、二部は「奈良歌うボランティア」のコンサートでした。当日の会場は超満員でした。

コンサートの終了後はその週に実行委員、聴きに來られた人へのインタビュー、NHK金沢放送局で作詩者と作曲者の演奏のスタジオ収録を含め、夜7時30分から30分間のローカル番組で放送されました。

また、NHK金沢で障害者に関する取材、番組制作も増えました。Iアナウンサーが担当する夕方のローカルニュース番組では、週に一度は障害者に関するレポートが放送されていました。羽咋・松任・七尾とわたぼうしコンサートの司会をされたことで、障害者に関する取材、番組が増えたのだと思います。

また、Iアナウンサーが担当で、土曜日の午後、FMラジオで金沢から公開生放送の「FMリクエストアワー」のスタジオにも、わたぼうしコンサートの実行委員と何度か、訪問しました。

その後、七尾わたぼうしコンサートの司会を担当した翌年、昭和59年の夏にNHK仙台へ転勤されました。

また、昭和57年、58年に羽咋わたぼうし会が松任・七尾の若者たちに働きかけ、松任わたぼうしコンサート、七尾わたぼうしコンサートが行われました。その暮れに石川テレビが主催するチャリティーコンサートへの出演依頼があり、松任・七尾で発表した地元コンサートを、金沢市文化ホールで石川テレビのOアナウンサーの司会で再演されました。そのときNHKのIアナウンサーも聴きに來て下さいました。

羽咋わたぼうし会は、コンサートを企画した人、参加した人、聴きに來られた人等の有志によって、このつながりを大きく、広くという願いをもって作られた会で、昭和57年4月に発足。

私は昭和58年に在宅生活を送っているとき、夏に七尾わたぼうしコンサートの実行委員会の

人たちと出会い、その年の12月に羽咋わたぼうし会の人たちと出いました。

昭和59年の夏に福祉事務所から電動和文タイプライターをいただき、会長から「HSK季刊わたぼうし」の原点である羽咋わたぼうし会の会報「わたぼうし通信」のタイプライター打ちを依頼されたのです。「わたぼうし通信」とは定例会に出席できない人にと、会員向けに通信を手書きで、昭和57年から59年まで発行。その間に文集「ひなたぼっこ」も3号まで発行したり、夏にキャンプを行ったりしました

「わたぼうし通信」のタイプ打ちをしているうちに、施設の入所者・在宅障害者・健常者が紙面を通じて交流を図る新聞を作りをしてはどうかと、会員と相談しました。

「わたぼうし新聞」を発行したいと思ったきっかけは、羽咋・松任・七尾と3年連続のわたぼうしコンサートが終了すると、お互いの生活があるため、実行委員の方々と交わりが持たなくなりました。特に、当時の私は在宅生活でしたので、寂しさは人一倍でした。

「わたぼうし通信」を「わたぼうし会」だけの会報としてだけではなく、自分の思いや、伝えたいこと、詩や俳句などの文芸、催し物紹介などを行うことで、施設入所者・在宅障害者・健常者が紙面を通じて交流を図ったり、情報交換の場に来たらと思ったのです。

昭和59年の暮れに、会員同志が話し合い、私の知り合いから原稿を数点いただき、昭和60年1月に待望の「わたぼうし新聞」の創刊号を発行しました。B4用紙表裏タイプ打ちでコピーして数人の方に配布したことが始まりでした。



2. 1985～1990年を振り返る

この時期は日本はバブル崩壊し、経済は高度成長期から低成長期に変わりつつありました。1985年8月に日航ジャンボ機墜落事故、石川県では全国高校総体がありました。

4年前の25周年記念に、羽咋わたぼうし会の「わたぼうし通信」、創刊号からの「HSK季刊わたぼうし」を5年ずつ分冊して製本したものが5冊(1セットのみ)あります。この冊子からテーマを抜き出して歴史を辿ってみます。

①ボランティア・家族(1985年)

わたぼうし新聞3号からテーマを設けて原稿を募集しました。第一弾はボランティアでしたが、著名人のボランティア像を雑誌、著書からボランティアについて多方面から書き出している。主婦、在宅障害者の2名の投稿を掲載。

「家族とは」は幼い頃から訓練、勉強のため施設に入所して生活をしているため、お盆やお正月に家へ帰るとお客様。障害児が家族と生活できない寂しさ、家へ帰っても近所に友だちがいない寂しさを特集に組んであります。

②新年金制度について(1987年)

1986年4月より「障害福祉年金」が廃止され、「障害基礎年金」が施行されました。それによって一級の場合、年間477,600円が750,000円に増額されました。

また、年金の受け取りが郵便局のみから、自分の指定金融機関に振り込みが可能になり、支給が年3回が4回(現在は年6回、偶数月の15日に振り込まれます)。投稿には支給金額が増額された喜び、逆に障害者施設入所者に費用徴収が始まったことが掲載されています。

この施設入所者への費用徴収が、後の障害者支援費制度、障害者自立支援法の費用負担に繋がって行くのでしょうか。

③介護とは(1988年)

昭和63年(1988)一年間に渡り、私たち障害者にとり、身近で大切な「介護とは」というテーマを取り上げました。投稿者も障害のある当事者、介護に携わっている施設職員、看護師、家族、病院ケースワーカーなど21名の方々に投稿をいただきました。

介護に関する投稿に加え、「介護・介助に関するアンケート」を行いました。アンケートは、回答しやすく選択方式、読者に何を伝えたいのかをハッキリすることが大切と、周囲からアドバイスを受けながら作成しました。アンケートの協力者は障害者は41名、健常者は施設職員を含め47名でした。

④生きる(1989年)

このテーマは難しかったと思います。投稿者は健常者が多くいました。日常生活の忙しさの中で生きる目的を失いつつも、自分なりの目的を見いだして生きている方の投稿がありました。

「生きる」のテーマの号に「スポーツと出会って」という投稿があり、全国大会、海外の大会、大分国際車いすマラソンに出場する間の、仕事が終わってからのトレーニング、家事のやりくりなどを読んでいて、以前の「HSK季刊わたぼうし」は内容が濃いものがあったと反省させられました。



「HSK季刊わたぼうし30年の歩み」次号へ続く

能登食祭市場が改装されました。

～バリアフリーが進み、利用しやすくなりました～



昨年、改装工事を行った能登食祭市場正面にスロープが設置されました。以前は、正面玄関の横にあるスロープ、鮮魚店の入り口から入っていました。市場内の通路、飲食店も広くなり、車いすでも利用しやすくなっています。

暮れにNHKで放送された「鶴瓶の家族に乾杯」は七尾市からでした。鶴瓶さんと上戸彩さんが、能登食祭市場前、一本杉通りを歩いていました。番組の情報を参考にして、車いす利用者の視点から取材をしていきたいと思ひます。

「HSK季刊わたぼうし」廃刊のお知らせ

1985年(昭和60年)に創刊しました「HSK季刊わたぼうし」は、100号を持ちまして廃刊をさせていただきます。

廃刊の理由は編集委員の高齢化に伴う体力の限界、インターネット、携帯電話、スマートフォン等の情報機器の普及で購読者の減少によります。

30年に渡り支えて下さり心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

今後は「HSK季刊わたぼうし」のホームページで情報を発信させていただきます。

編集後記

読者の皆さん、こんにちは。今年は雪が少なかったですが、寒さが厳しい冬でした。

今回より、「HSK季刊わたぼうし」創刊30周年に向けて歩みを書いていきます。一回目として書いていくうちに、色々なことが思い浮かんできました。しかし、よく30年も続いているなあーと驚いています。これも皆様のご協力があつて続けて来られたことに感謝を申し上げます。今後、どれだけ書けるかわかりませんが、よろしくお願い申し上げます。

ちまたではノロウイルス、インフルエンザが流行し始めて来ました。私の周囲は昨年は大流行。今年は落ち着いていると思ひていましたら、インフルエンザが大流行。これ以上、広がらないように願っています。とにかく、手洗いとうがいに努めましょう。(Z.O)



編集及び連絡先

ホームページ

<http://jiritsusien.com/>

Eメール: zen@san9.net

発行人 北陸障害者定期刊行物協会
富山市今泉312番地

定価二〇〇円